次世代難燃剤開発で連携

セトラスHD 岐阜大に共同研究部門

高度な人材の育成も

セトラスＨＤが共同研究部門を設置した岐阜大の研究センター＝岐阜県

化学品・医薬品製造のセトラスホールディングス（HD、高松市）は、岐阜大学（岐阜県）に樹脂製品などを燃えにくくするのに使われる「難燃剤」の共同研究部門を設置した。同社が培ってきたマグネシウム加工技術を応用し、従来品より優れた難燃性と加工性を併せ持つ次世代難燃剤の開発に取り組むほか、研究人材の育成を図る。

難燃剤は、火災時に製品を燃えにくくするため、電線・ケーブル、自動車、半導体、住宅などの幅広い分野で活用されている。

近年は、環境・健康リスクが指摘されてきたハロゲン系難燃剤からの脱却など安全性確保と環境負荷低減の両立が求められており、セトラスHDグループの協和化学工業では、水酸化マグネシウムを原料にした環境負荷の低い非ハロゲン系難燃剤の開発で高い技術力を有している。

一方、岐阜大は難燃剤研究で実績があり、セトラスHDとは昨年度、京都大とともに高機能難燃剤の開発で連携を開始しており、今回の共同研究部門の開設につながった。

研究部門は1日、岐阜大がものづくり分野の研究拠点として活用している「高等研究院Guコンポジット研究センター」内に設けた。名称は難燃材料共同研究部門で、設置期間は2年間。双方の技術と知見を融合させ、特殊な装置などを使って燃焼挙動を詳細に解析。複雑な難燃のメカニズムを解明し、革新的な次世代製品の開発を目指す。

次世代を担う人材育成にも注力。岐阜大の教員、学生とセトラスHD側の若手研究員との間で、組織や分野の垣根を越えた活発な人的交流を行う予定。同HDは「社会的ニーズを踏まえた顧客志向の研究開発に対応できる高度な研究人材の育成に貢献していく」としている。

インドネシアの送り出し機関と意見交換する県内監理団体の担当者＝高松市サンポート

ワイド KAGAWA

P2LN）に加盟する10社の担当者ら。同中央会はAP2LNと今年1月、インドネシア人材の送り出し・受け入れに関する覚書を結んでおり、マッチングイベントの開催は初めて。

県内では製造や建設、介護など幅広い分野で人手が不足しており、外国人材の中、中国などと続く。

この日は県内から19の監理団体などが参加し、各送り出し機関の担当者と意見交換。3年前にインドネシアからの受け入れを始めたという国際経済交流協同組合（多度津町）の近藤善和代表理事は「就労先は農業が一番多いが、働きぶりは真面目。送り出し機関の日本語教育もしっかりしている」と評価した。

マッチングしたインドネシア人材は最短で6～8カ月後に県内で就労する。AP2LNのフィルマン・プディヤント会長は「香川は気候的にもインドネシアと

に増加、国籍別ではインドネシアが3942人で最も多く、ベトナム、フィリピ

シア人材を受け入れてきたヒューマンリンク協同組合（さぬき市）の宮内和彦代表理事は「日本を好きな人

倒的に人手不足が多い。覚書などを通じ、優秀な人材の受け入れを広げたい」と意欲を示した。

商品化を目指す調査研究に助成

産業支援財団が募集

かがわ産業支援財団（高松市）は、新たな商品化を目指して技術の調査研究や開発に取り組む企業などに対して助成する「商品化技術テーマ調査事業」を募集している。募集期間は8月31日まで。

対象は、大学や高専、公設試験機関などと共同で研究している県内の企業や団体、個人。原材料費や機械装置・器具費など直接必要な経費について、100万円以内で助成する。助成率は5分の4以内。

3件程度を採択予定。審査は書類審査とプレゼンテーションで行う。申請書類は同財団ホームページからダウンロードできる。問い合わせは同財団産学官連携推進課（087（840）0338）。

これからの就活に備えて

高松商議所 県内学生向け講座

企業担当者と意見を交わす学生たち＝高松市サンポート

高松商工会議所は6日、高松市のサンポートホールで県内学生を対象にした就職活動講座を開いた。「自分軸で選ぶ、これからの就活」をテーマに、学生たちは企業の担当者らと交流を深めながら、自分が理想とする進路を探った。

若い世代の県外流出が課題となる中、県内企業の魅力を発信し、学生と企業の接点を増やそうと昨年に続いて企画。就活を控える徳

考える時間を受講した後、香川銀行、JR四国、セーラー広告、高木綱業、フソウ（以上高松市）の5社の担当者が待つテーブルをそれぞれ巡った。

大切だと思った。自分の夢や自標と照らし合わせ、具体的にイメージしながら就職先を考えていきたい」と話していた。

500人労災事故防止誓う

高松で産業安全衛生大会

「全国安全週間」（1～7日）に合わせ、香川労働局（友住弘一郎局長）などは7日、高松市玉藻町のレクザムホールで香川産業安全衛生大会を開いた。県内企業などから経営者や従業員ら約500人が出席。労災事故防止を誓うとともに、安全衛生活動に功績のあった企業や個人を表彰した。

大会では、同局の小山正博健康安全課長が「働くことで生命が脅かされたり、健康が損なわれたりすることはあってはならない。大会を契機に、さらなる安全衛生活動の推進、労働災害の撲滅を図っていただきたい」と友住局長のあいさつを代読。香川労働災害防止団体連絡協議会の二村泰寛会長は「県下の労働災害は長期的には減少しているものの、近年は増加傾向にある。安全で健康に働くことができる職場環境の一層の整備をお願いしたい」と式辞を述べた。

厚生労働大臣賞の伝達を受ける若林氏（左）＝高松市玉藻町、レクザムホール

労働者の安全衛生活動に貢献したとして、県医師会の若林久男副会長に厚生労働大臣賞功績賞を伝達したほか、香川労働局長賞と香川労働災害防止団体連絡協議会長賞の表彰を行った。受賞者は次の通り。（個人は敬称略）

【香川労働局長賞】奨励賞 三菱ケミカル物流西日本支社香川事業部、東洋炭素生産技術センター、日本興業志度工場▽功績賞 淡河洋一（坂出・綾歌地域産業保健センター代表兼運営協議会長）

【香川労働災害防止団体連絡協議会長賞】優良賞 青木林産工業、川上板金工業所、幸真、スズキ自販香川本社、岡井工業、富士カガク高瀬工場、マフテック坂出工場、横田建設▽功績賞 寺田洋一（ヒカリ）中川和幸（奥海運）

ハンド・シラソル香川 香川銀、運営子会社を設立

香川銀行（高松市）は7日、女子ハンドボールチーム「香川銀行シラソル香川」の運営などを手がける100％子会社を設立したと発表した。

設立した会社は「香川GiraSol（シラソル）株式会社」。代表取締役は山田径男香川銀会長が務める。資本金は3千万円で、香川銀が全額出資した。チーム運営のほか、スポーツ教室などのスクール事業に加え、グッズ販売といった営業事業なども担う。選手13人と同日付でプロ契約を結んだ。

香川銀では、女性行員によるハンドボール部を1992年に創部。ハンドボールの国内最高峰、リーグH（エイチ）は、参入4年目の2025～26年レギュラーシーズンで初の1位通過を決め、プレーオフでも初優勝を果たした。

リーグHは、参加チームの運営体制について27～28シーズンまでの独立法人化を求めている。香川銀は「スポーツ事業を通じた地域活性化、持続可能な社会の構築などに寄与していく」としている。

高松総合住宅展示場
シエスタ21
主催／四国新聞社・西日本放送
シエスタ21
SUMMERフェスタ
8/31(月)まで
7/11(土)・12(日)
夏を楽しむ第1弾♪
人気店！
KIWAJIが出店
KIWAJIが人気のアイスクリームを販売します。モデルハウスで見学&アンケート記入で、当日使用できる500円チケットをプレゼント（各日先着60人）。
【時間】11:00～16:00
【場所】センターハウス
7/18(土)～20(月)
持ってるぞー！
恐